みられるが，その再検討の結果の一部として，前記 *Ph. glomerata* のほか，若干の検討結果をここにのべる。その一つは *Ph. hastata* に近い小形品で，現在のところ，マダガスカル～アジア南部～東南部～太平洋諸島に分布する熱帯的のものについてであり，もう一つは，日本にもよく知られているコツクシサワゴケ (*Ph. socia*) についてである。

筆者[3] は最初コツクシサワゴケを中国・ヒマラヤ・日本的要素と考えた。しかし，今回検討の結果，*Ph. Thwaitesii* という先行名があることがわかり，その分布もネパールやシッキムのみ（越智，1966)[4] ならず，南～東南アジアからニューギニアにかけて広く見られることがわかった。この分布は，現在のところ旧熱帯型のものと言えよう。

○ナガサキシダモドキの胞子から幼植物を育成した（志村義雄） Yoshio Shimura: Sporelings of *Dryopteris toyamae* Tagawa.

百瀬静男[2] は1967年，ナガサキシダモドキの胞子が不定形で，前葉体の形は不規則，それに造精器，造卵器が生ぜずまた無配芽も生じないと報告している。つまりこのシダは胞子による繁殖が不明である。つぎに栗田子郎[1,3] はそのシダの染色体数が，2n＝C.123，この胞子母細胞が正常な減数分裂を行わず，3倍体の雑種であると報じている。

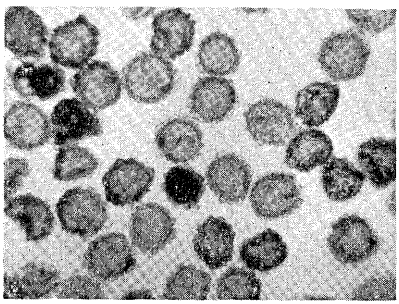

図1. ナガサキシダモドキの胞子. ×130

筆者は最近ナガサキシダモドキの成熟胞子をまき，約2年半後において，この完全な幼植物を育成した。すなわち材料の胞子（図1）は，8年前に熊本県水俣市無線山で採集した1株を静岡市大岩の自宅の庭の樹林下に移植したものから，1967年5月24日に採集した。他方栽培床は煮沸した壌土を蒸気消毒した直径 18 cm 植木鉢に八分目ほど固くつめたものを用いた。この鉢に同年5月26日，さきに用意した胞子を適当量まきつけ，鉢の上部を清潔なガラス板で蓋をした後，20 cm シャーレの中においた。以後このシャーレの内に随時 Meyer 氏液を灌水し，研究室内で肥培管理を行った。ちなみにこの胞子の形は，このシダを好適環境下で，充分な肥培管理を行い，完熟時期に採集した場合は，やや球形に近くて比較的揃ったものにな

3) Nova Hedwigia 5: 108 (1963).
4) Ochi in Hara, H.: The Flora of Eastern Himalaya, Tokyo (1966). p. 566.

り，これ以外の場合では大小不揃で，不定形になるものが多いように思われる。

さてこのまきつけた胞子は約10日後に発芽し（胞子の発芽率は，7%—22%），5カ月後には若干の正常形（ハート形）の前葉体が形成された。このころよりガラス板をとり，上方からも灌水した。約10カ月後，これらのうち3個体の前葉体には肉眼で認められる胚ができ，成長をつづけた。このうち1個体は発育途中で枯れたが，残りの2個体は約2年半後，図2（1969年9月16日撮影）に示したような完全なナガサキシダモドキの幼植物（最長の葉長は15 cm）に生育し，なお現在も成長をつづけている。この葉の羽片はいずれも開葉当初から左右に切込みができる。ちなみに前葉体の形はMeyer氏の液体栽培床で発育させた場合，百瀬[2]の指摘したように殆んど不規則形になり，壌土栽培床では多くのものは正常形（ハート形）になった。このシダの前葉体における造卵器，造精器，無配芽などの形成の有無に関する疑問点を検討する実験観察は現在行っている。とにかくナガサキシダモドキの中には確実に胞子で繁殖するものがある。

図2. ナガサキシダモドキの幼植物．
1967年5月26日に胞子をまきつけ，
1969年9月16日に撮影したもの．2/9

文　献

栗田子郎：植物研究雑誌 40：240 (1965).　——：千葉大学留学生部研究報告 2：48 (1967).　百瀬静男：日本産シダの前葉体 (1967).

○台湾・琉球の植物補遺 (8) (山崎　敬) Takasi YAMAZAKI: Supplement of the flora of Ryukyu and Formosa (8).

16) **台湾のツルリンドウ属**　佐竹義輔氏 (1951) は台湾のツルリンドウ属のものを4種類認めている。*Tripterospermum japonicum* (ツルリンドウ), *T. lanceolatum*, *T. taiwanense*, *T. cordifolium* である。佐竹氏は他の台湾の種類は引用標本をあげているが *T. japonicum* は台湾，中国にも分布するというだけで特に標本を引用していないので，台湾のどのようなものを *T. japonicum* としたか明らかでないが，東大の